

校訓	自分を育て 自分を生かし 社会を明るく	令和6年度学校だより <b>「天の子」</b> 第10号	発行日	令和6年11月5日
教育目標	夢と誇りのある生徒の育成 ～主体的に学び、考え、行動する力と、豊かな心を育む～		発行者	伊丹市立天王寺川中学校 校長 永嶺 香織

## 自己決定力を高める

早いもので、11月になりました。10月に入っても気温が25度を超える日が続きましたが、ようやく秋を感じる季節がやってきました。10月に実施しました体育大会、学習発表会等、様々な場面におきまして、保護者の皆さまにご理解とご協力をいただき、無事に終了することができました。ありがとうございました。

体育大会は初めての平日開催にもかかわらず、多くの保護者、地域の皆さまにお越しいただき、声援を送っていただきました。学習発表会も、合唱コンクールや展示、舞台発表を通して、天中生の学習の取り組み、子どもたちが頑張る姿を見ていただきました。

子どもたちは、学習や委員会活動、部活動等を通して、努力することの大切さ、仲間と協力することの難しさ、一人ひとりがその役割を果たす責任感等、たくさんのことを学んでいます。保護者の皆さまにもその学びや成長を感じていただけたのではないのでしょうか。

さて、3年生は本日から中学校卒業後の進路志望先決定に向けて、予備懇談（三者懇談）が行われます。小・中学校は義務教育ですから、これまで、皆が同じ進路を進んできました。しかし、中学校卒業後は、自分の道は自分で選択していかなければなりません。自分はどんな学校に進みたいのか、高等学校で何を勉強したいのか、高等学校卒業後の進路も踏まえてどの学校に進むのか、と悩んだり、迷ったりしている人も多いことでしょう。1つお伝えしたいのは、進学先に入ることは目的ではありません。そこでしっかり学ぶこと、次の進路や将来につなげるのが目的です。だからこそ、自分の納得のいく道をしっかり選択してほしいと思います。今回の予備懇談、そして、12月の三者懇談に向けて、ご家庭でも子どもさんとゆっくりとお話いただきたいと思います。



ある大学の調査で、①「所得」②「学歴」③「自己決定（自分の意思で高校進学、大学進学、初めての就職を決める）」④「健康」⑤「人間関係」と「幸福感」との関わりについて分析した研究があります。その結果で興味を引くのは、人が幸福感を感じるために強い影響を与えているのは、「健康」「人間関係」、そして、あと一つは何だと思われますか？それは「自己決定」でした。所得や学歴が高いよりも「自己決定度」が高いほうが幸福感が高くなるという結果でした。自らの判断で努力することで目的を達成する可能性が高くなり、また成果に対しても責任と誇りを持ちやすくなるということです。

子どもたちは、「勉強するか。遊びに行くか」「どの教科の勉強をするか」など、些細なことを含め、日々、様々な判断や決断をしています。この些細な決断を繰り返すことが、子どもの「自己決定力」を高めます。「ほんの些細なことをしっかり考える・（見通し等を）判断する・決める」経験の積み重ねが、「進路や就職など人生の中での大きなことを考える・判断する・決める」ことができるようになることにつながります。私たちは、子ども自身が自分で考えて、自分で物事を決めることができるよう、選択肢や考えるためのヒントを与えたりしながら支援していきましょう。



## 令和6年度 天中校区 ふれあいフェスティバル

11月3日（日）、さわやかな秋晴れのもと、PTA さんによる「ふれあいフェスティバル」が開催されました。校庭では、本校PTAさん、天神川小学校PTAさん、校区内で営業されているスマイルさんやリカちゃん人形が着ている天中旧制服を作成したモコモコさん、伊丹げんき商業会さん、本校職員等のたくさんの出店がありました。体育館では、放送部の司会のもと、本校生徒有志によるダンス、桜台ジュニアバンド、本校吹奏楽部、午後からはダブルダッチのパフォーマンス等のステージ発表もありました。たくさん子どもたちやご家族の皆さま、地域の皆さまにお越しいただき楽しんでいただくと同時に、企画運営に参加させていただいた生徒ボランティアをはじめとして、子どもたちに活躍の場を与えていただきました。

これまで、実施して下さっていた「ふれあいの集い」ですが、子どもたちのためにPTAさんが新たな形で開催して下さった記念すべき第1回です。清水PTA会長さんをご挨拶のなかで、『このイベントは、令和元年度までPTA執行部と全委員総出で盛り上げる大きなイベントでした。しかし、感染症拡大対策により2年間は中止し、一昨年と昨年は、感染症対策をしながら小さな規模で開催しました。しかし、一度中止されたイベントを復活させることは大変難しく、PTAにも先生にも大きな負担がかかってしまい存続の難しさを目の当たりにしました。一方で参加した生徒たちからは、たくさんの喜びの声が届き、次年度を楽しみにしている様子をうかがえました。』



このイベントは誰のためのものなのか？と考えた時、その答えは明確であり、私たち大人の都合でなくすべきではないという結論に至りました。そこで、旧執行部メンバーを中心に新たに「ふれあい企画部」という組織をつくり、自主的に活動したいメンバーで企画運営することにし、「ふれあいの集い」を改め、「ふれあいフェスティバル」として、今回からリニューアルすることになりました。

大きな変更点は、部活動単位での出店をやめて生徒全体からボランティアを募ったこと、PTAふれあい実行委員をふれあい企画部が全面バックアップする体制に変えたこと、そして外部にも助けていただくようにしたこと』と述べておられました。目的に向かって、時代の変化に対応した形をつくりあげていただきました。

子どもたちが楽しめる居場所づくり、そして、これからの時代を担う子どもたちが地域の中で育ち、そして地域を支える人材としての自覚を育む貴重な機会となりました。

PTAをはじめとして、ご支援をいただきました桜台地区コミュニティ協議会、鴻池小学校地区自治協議会、池尻小学校区まちづくり協議会の皆さま、本当にありがとうございました。

今後も子どもたちの健やかな成長のため、充実した教育活動に取り組んでまいりますので、ご理解、ご支援を賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。



天王寺川中学校の取組や子どもたちの様子をホームページに載せています。是非、ご覧ください。

[https://www.itami.ed.jp/school/Jrhigh/jr\\_tenn/index.html](https://www.itami.ed.jp/school/Jrhigh/jr_tenn/index.html)

※右のQRコードをお読みいただき、天王寺川中学校のホームページをご覧ください。

